



# あすなる夢建築

## 大阪府公共建築設計コンクール

### 明るいコミュニティをはぐくむ

～大阪府営堺新金岡2丁3番住宅集会所～

#### 主催

大阪府 公益社団法人 大阪府建築士会 大阪府住宅供給公社

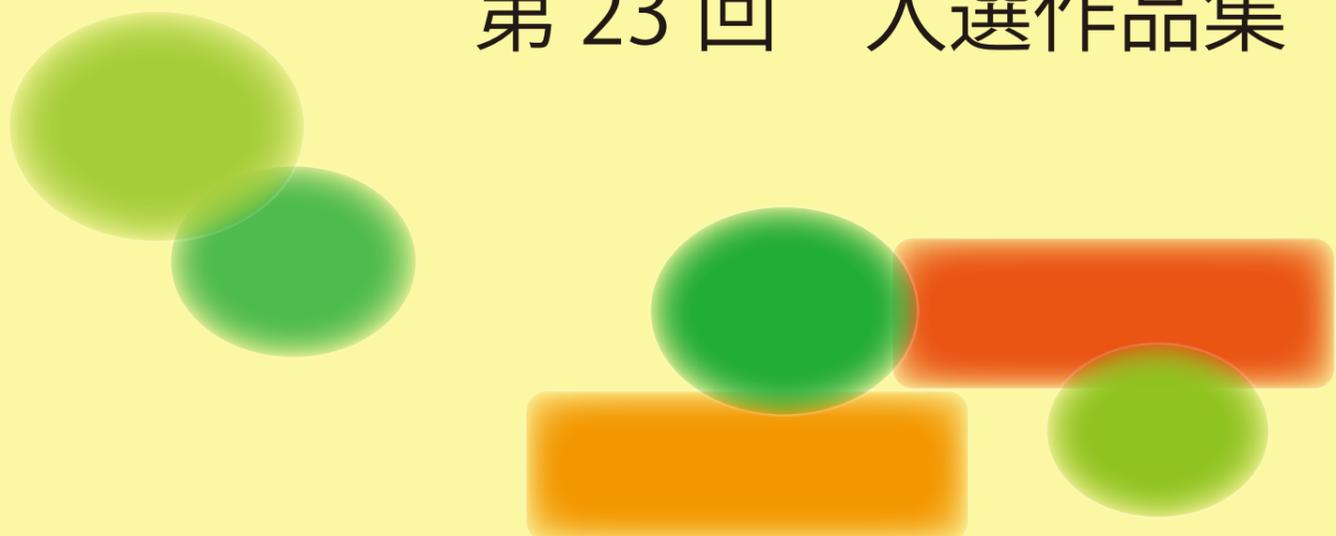
#### 後援

大阪府教育委員会 一般社団法人 大阪府専修学校各種学校連合会

#### 協賛

一般社団法人 日本建築協会 一般社団法人 大阪府建築士事務所協会  
公益社団法人 日本建築家協会近畿支部 一般財団法人 大阪建築防災センター  
一般財団法人 日本建築総合試験所 一般社団法人 公共建築協会  
社団法人 大阪建築設備設計事務所協会 公益社団法人 日本建築積算協会関西支部  
公益財団法人 建築技術教育普及センター近畿支部

## 第23回 入選作品集



「あすなる夢建築」大阪府公共建築設計コンクール事務局  
大阪府住宅まちづくり部公共建築室計画課  
〒559-8555 大阪市住之江区南港北1-14-16 TEL:06-6941-0351(代表)  
平成26年3月発行

# コンクール概要

このコンクールは、小規模な公共建築物を題材とした実践教育の場を提供することにより、将来の建築技術者の育成を図るとともに、永く府民に愛され親しまれる公共建築づくりを推進することを目的として、大阪府内に所在する建築関連学科のある工業高校や専修学校等に在籍する学生・生徒から提案を募集し、グランプリに選定された作品の提案趣旨を活かして事業化を行うものです。

## 【テーマ】

明るいコミュニティをはぐくむ  
—大阪府宮野新金岡2丁3番住宅集会所—

## 【主な設計条件】

所在地：堺市北区新金岡町2丁3番  
計画地面積：約680㎡  
床面積：200㎡～220㎡  
構造・規模：鉄筋コンクリート造 平屋建て1棟

## 【作品受付期間】

平成26年1月6日(月)～1月10日(金)

## 【応募状況】

応募校数：15校  
応募作品数：190点(うち 第1部30点、第2部160点)  
応募者数：217人(うち 第1部34人、第2部183人)

| 第1部           | 第2部               |
|---------------|-------------------|
| 大阪市立工芸高等学校    | 大阪建設専門学校          |
| 大阪市立都島工業高等学校  | 大阪工業技術専門学校        |
| 大阪府立今宮工科高等学校  | 大阪府立デザイン教育研究所     |
| 大阪府立西野田工科高等学校 | 大阪府立芦原高等職業技術専門学校  |
| 大阪府立布施工科高等学校  | 大阪府立北大阪高等職業技術専門学校 |
| 岸和田市立産業高等学校   | 大阪府立大学工業高等専門学校    |
|               | 修成建設専門学校          |
|               | 中央工学校 OSAKA       |
|               | 日本理工情報専門学校        |

## 【応募資格】

大阪府内に所在する学校のうち、学校教育法の規定による工業高等学校(工科高等学校)・短期大学・工業高等専門学校・専修学校・各種学校・高等職業技術専門校の建築関連学科に在籍する学生・生徒であり、個人又は3名以下のグループ。

## 【募集区分】

第1部：工業高等学校(工科高等学校)に在籍する生徒  
第2部：短期大学・工業高等専門学校・専修学校・各種学校・高等職業技術専門校に在籍する学生

## 【入選作品と賞】

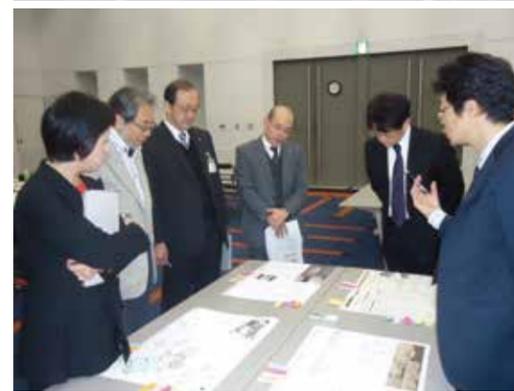
グランプリ1点、準グランプリ1点、優秀作品賞2点、佳作3点、奨励賞3点の計10点を入選作品として選出。ただし、第1部と第2部からそれぞれ2点以上の入選作品を選出することとした。

## 【表彰式・プレゼンテーション】

日時：平成26年3月20日(木)  
場所：大阪府咲洲庁舎 23階 中会議室

## 【作品展示】

場所及び期間  
(1) 大阪府咲洲庁舎 1階ロビー  
平成26年2月14日(金)～2月28日(金)  
(2) 大阪府庁本館 1階ロビー  
平成26年3月3日(月)～3月14日(金)



## 審査委員

### 【審査委員長】

大坪 明  
(武庫川女子大学生活環境学部生活環境学科教授)

### 【審査委員】

福原 和則  
(大阪工業大学工学部空間デザイン学科教授)

加我 宏之  
(大阪府立大学大学院生命環境科学研究科准教授)

井上 久実  
(井上久実設計室代表)

前田 栄治  
(大阪府住宅まちづくり部住宅経営室住宅整備課長)

平田 真  
(大阪府住宅まちづくり部公共建築室長)

## 総評

審査委員長 大坪 明

本年度も、昨年よりは若干点数が減ったものの、200点近い作品の応募をいただき、関心の高さを改めて感じた次第でございます。工業高校の部、専修学校等の部ともに、ハイレベルな作品があり、デザインだけでなく現実の使い勝手や維持管理面への配慮がなされた作品が少なからず提案されていることは、建築が持つ現実性と向かい合う姿勢が感じられます。しかし、若者らしい冒険心に満ちた作品も提案されていることは、非常に好ましいことです。一方で、建築が置かれる周囲の状況を余り考慮せず、当該敷地の中だけで案を考えている様な作品も、少なからず提出されている点は残念でなりません。建築は、建設される場所と一対一の関係を持つので、その場の特性を理解し、それをヒントに設計をすることを習得して頂きたいものです。いずれにせよ、このコンクールに作品を提出した応募者の皆様、およびそのご指導に当たられた先生方のご努力への御礼と、入賞者の皆様へのお祝いを、この紙面を借りて申し上げます次第でございます。

### 水口伸一郎 作品(グランプリ)

集会室や湯沸室が敷地西側の広場及び団地内の南北主動線に面し、それらがテラスを囲むように配置され、開かれた集会所となっている。西から東へ湯沸室+テラス、玄関+集会室、トイレ・和室等と3ゾーンが整理されて配置され、シンプルで使いやすいプランである。集会室の西面のテラスのパーゴラは、西日を避ける手段に活用することが出来る。敷地周囲の状況も十分に理解し、良く考えられた計画案であり、完成度の高いものになっている。

### 井上祥生 作品(準グランプリ)

団地内の通路を延長し、敷地内に貫かせたアプローチが良い。北西角のウッドデッキは団地内通路の交点であり、ここでのアクティビティは賑わいのアピールにもなる。それに面して集会室と外部のふれあいデッキを設けており、敷地特性をよく理解している。巡回管理員室の位置が分かりにくい点や、西日に対する対策がない点が課題である。

### 松本由衣・久留島裕也 作品(優秀作品賞)

北東からの団地内動線の方に合わせて建物を振り、東西及び南北の団地内動線が交差するところにオープンスペースを設け、そこに向けて集会室を配置した点は、集会室内外でのアクティビティを見せるために非常に有意義である。屋根や外構の柵のカーブが優しい雰囲気を出している。

### 前川文洋 作品(優秀作品賞)

敷地西側にオープンスペースを設け、周辺住棟からの日陰の影響を考慮して建物配置を決めている点や、集会室や和室が多面開放で風通しが良い点が好ましい。建物が敷地境界に近接しすぎる点や、集会室と和室の屋根の形状の取り合いが課題である。

### 大西彩斗 作品(佳作)

敷地西側の広場と集会室との関係に注目した点、団地内の主動線から集会室でのアクティビティが良く見える点、プランや動線がシンプルな点、屋根を分節的に扱いヴォリューム感を低減している点が好ましい。西日対策を考える必要がある。

### 野口綾子 作品(佳作)

中庭を中心に各室を配置した明快なプラン。空間規模に合わせた高さのブロックを連続させた構成や、集会室が最も大きなブロックとして団地内主動線の交点に近い位置に配置されている点が好ましい。集会室の開口を大きくし、外部との関係を作る方が望ましい。

### 小森都雄 作品(佳作)

長軸である東西方向に敷地をゆったり使い、南向きにデッキを伴うフレキシビリティの高い集会室を配している。西側の広場とのつながりを意識し、集会室のアクティビティが外部から見える方が望ましい。

### 牧野純希 作品(奨励賞)

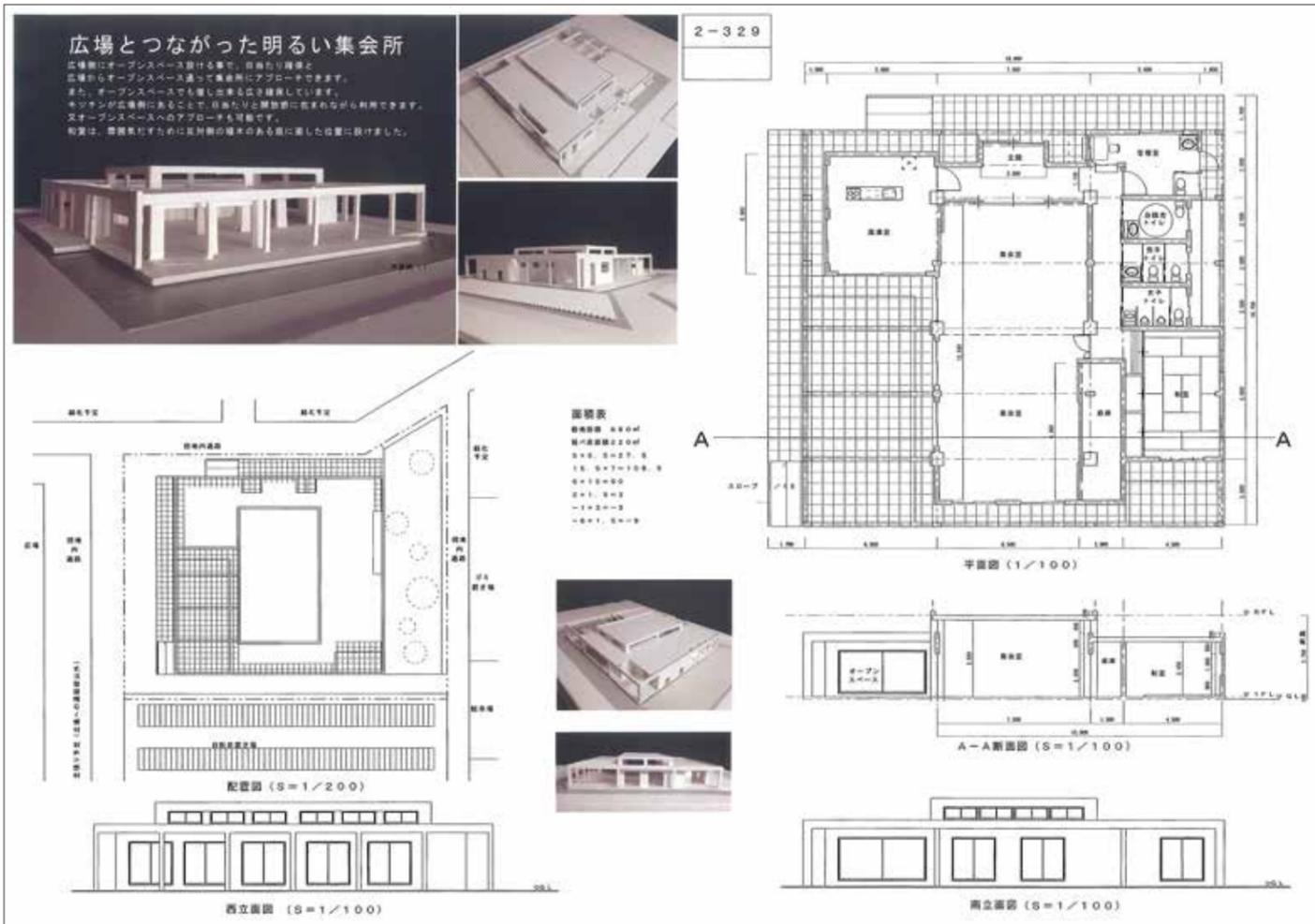
団地内の南北・東西動線を敷地内に引き込む通路を設け、それらをつなぐように半屋外のふれあいリビングを配置し、利用者が気軽に活用しやすい仕掛けとなっている。管理面や気候を考慮し、使い勝手上の課題を改善することを望む。

### 高田匡志 作品(奨励賞)

屋根を支える構造を独立的に扱っている冒険心を評価した。屋根を支える構造体と下部の部屋を構成する構造体が一体となっているが、これらは相互に分離する方が、設計意図が明確になるだろう。パーゴラ部の半屋外空間が道行く人を誘うかのようである。

### 三島僚介 作品(奨励賞)

集会室からキッチンにかけてテラスを回し、内外でのコミュニティ形成が期待できる。キッチン西側のテラス上部に可動ルーバーを設けて日差しを遮る工夫をしている点が好ましい。南北方向の抜けを屋根のフレームだけでなく、集会所を抜けのある配置とし、空間の連続として表現する方がよい。

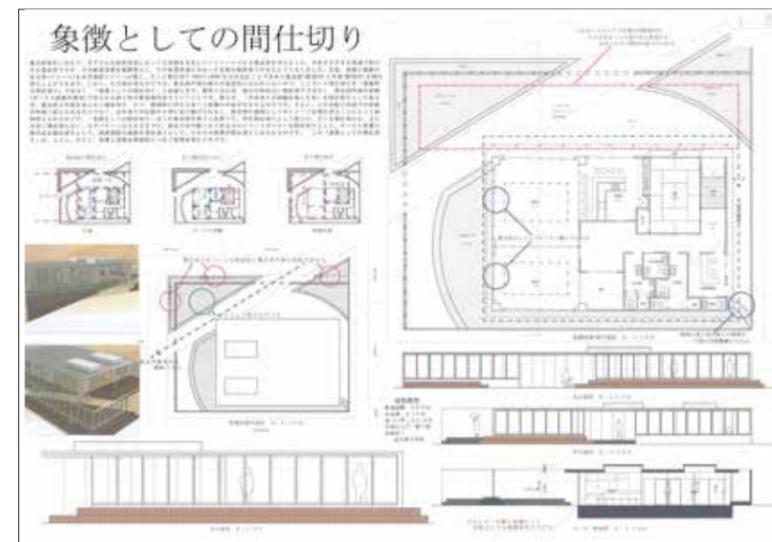


グランプリ

水口 伸一郎 大阪建設専門学校 2年

広場とつながった明るい集会所

広場側にオープンスペース設ける事で、日当たり確保と  
 広場からオープンスペース通って集会所にアプローチできます。  
 また、オープンスペースでも催し出来る広さ確保しています。  
 キッチンが広場側にあることで、日当たりと開放感に包まれながら利用できます。  
 又オープンスペースへのアプローチも可能です。  
 和室は、雰囲気だすために反対側の樹木のある庭に面した位置に設けました。



準グランプリ 井上 祥生  
 大阪市立都島工業高等学校 3年  
 象徴としての間仕切り

集会所設計にあたり、まずどんな使用状況にあっても空間を自由にコントロールできる集会所を考えました。本来さまざまな用途で使われる集会所ですが、その都度空間を模様替えし、その使用用途にあった空間を随時作りだせるよう工夫しました。北面、西面に額縁のある枠（フレーム）を水平垂直にいくつか配し、そこに間仕切り（900×1800）をはめ込むことで自由に集会所（敷地内）と外部（敷地外）を間仕切ることが出来ます。しかし、ただ間仕切るだけでは、集会所内部の様子が視覚的にはわからないので、ここでいう間仕切りを「建築的な間仕切り」ではなく、「象徴としての間仕切り」と定義します。（一部抜粋）



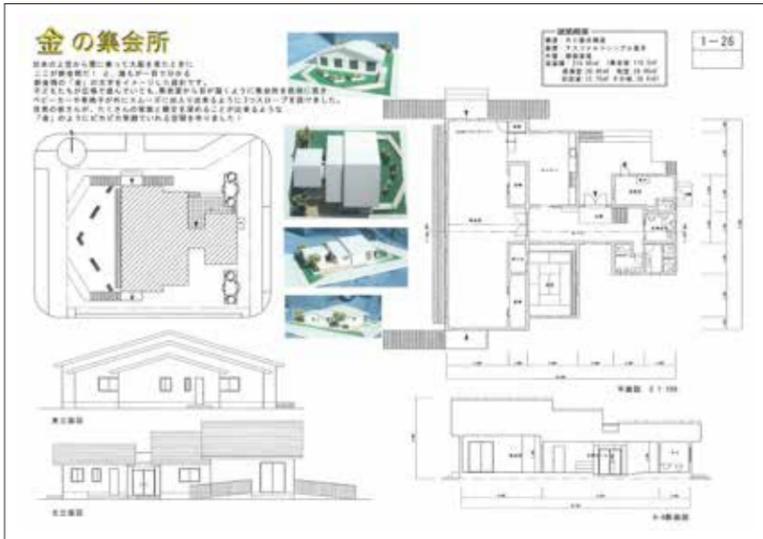
優秀作品賞  
 松本 由衣・久留島 裕也  
 大阪工業技術専門学校 3年  
 みんなが集うところ

今回提案する集会所は、いつでも気軽に立ち寄れるような場  
 今までの集会所は行事があるときにしか利用されず、普段は利用することがなかった  
 そこで敷地内に人の流れを取り込み、開かれた場をつくることで誰でも気軽に立ち寄り、住民同士の交流へと発展させようと考えた  
 交流のキッカケとなるのが“座る”という行為、座ることで会話をするキッカケとなり  
 いろんな人との交流が広がり“人×人、マンション×マンション、人×地域”へと発展しみんなが集うところとなる



優秀作品賞 前川 文洋  
 大阪府立北大阪高等職業技術専門校 1年  
 風と光の集会所

風と光を受けて冬暖かく夏涼しい、同時にそれらの抜けを妨げない自然に謙虚な建物にすることで、住民にも愛着の持たれる背丈の低い大きなベツをイメージデザインしました。  
 住民の柔軟な使い方に対応できるように室内には極力壁面を少なくしました。また、多くの部屋が両側に開口を持ち入隅部分も少ないことから掃除もしやすく、屋根構造も単純で天井高も低く保守点検も容易です。また、建物がGL+60cmの高さにあることから冠水の心配も少なく、同時に防犯の観点からも全方位からの視認性が高く、最も人目のつかない南面には開口部を設けていません。  
 これらが総合的に機能して、住人同士の生活に潤いをもたらす場所、また普段は利用しない人でも一目みただけで安心できる建物となる事を願います。



**佳作 大西 彩斗**  
大阪府立布施工科高等学校 3年  
**金の集会所**

日本の上空から雲に乗って大阪を見たときにここが新金岡だ！と、誰もが一目で分かる新金岡の「金」の文字をイメージした設計です。子どもたちが広場で遊んでいても、集会室から目が届くように集会室を西側に置きベビーカーや車椅子が外にスムーズに入出力出来るように3つスロープを設けました。住民の皆さんが、たくさんの家族と親交を深めることが出来るような「金」のようにピカピカ笑顔でいれる空間を作りました！



**佳作 野口 綾子**  
修成建設専門学校 1年  
**CUBE**

四角い部屋が中庭を囲むように配置。その中庭には「もみじ」を植栽。花言葉「大切な思い出」の意を込めて。四角い窓からの中庭の眺めはまるで額にはめられた絵の様。360°どの角度からも楽しめます。通りに面した集会室にある縁側は気軽な腰かけスペースに。箱がまるでもみじに集まるような集会所にたくさんの人が集まり「大切な思い出」作ってほしい。そんな思いを込めて…。



**佳作 小森 都雄**  
大阪工業技術専門学校 1年  
**つながる動線**

私たちが過ごしやすい空間と身体障がい者のすごしやすい空間は一緒でしょうか？私は少し違うと思いました。このような計画を考えてみました。バリアフリーなので段差をなくせばいいと思っていました。しかし、それだけではバリアフリーとは言えないのではないかと思います、タイトルにもあるように動線をつなげることを考えました。そうすることで車イス利用者にも利用しやすくなると思ったのです。車イスで旋回するのは難しいので建物全体を回れるようにしたのです。和室の畳の高さを車イスの座面の高さに合わせて畳に移動しやすくしました。巡回管理員室前に団地利用者が集まり会話ができるようにベンチを作ろうと思いました。南側に庭を設け西側の広場とつながるように考えています。デッキウッドから遊んでいる子供の姿を確認できる。階段と兼用でベンチを設けそこでも休憩できるように考えました。



**奨励賞 牧野 純希**  
大阪工業技術専門学校 2年  
**よりみち Living**

この集会所は新金岡2丁3番住宅の新たなファサードとなる。団地のベランダから見る集会所と、下に下りて見る集会所の姿は違っている。この集会所はもちろんふれあいリビングや式典などに利用するが、「よりみち」の場にも使っていただきたい。幼い頃の記憶の中によりみちは新しい道を発見すること。次第にそのよりみちに愛着を持ち、ついには自分の道にしてしまう。そんな感覚で、この集会所に賑やかさをもたらします。



**奨励賞 高田 匡志**  
修成建設専門学校 1年  
**光の中に腰かけて…**

【たくさんの人が光の中に集まり腰をおろして安らげる椅子】をモチーフとし、それを意匠、躯体に反映させました。集合住宅の中心に位置するため、多くの方が利用しやすいように中の様子が見渡せる開放的な計画をしました。集会場へのアクセスは、向かい側に見晴らしのいい広場がある西側としました。集会所の周囲にコミュニケーションスペースを設けて、地域の人が集まりやすい環境に貢献し、ルーフ部をパーゴラ状にし、重厚感を軽減させ光を透過させました。建物内部は中心に光庭、集会室に部分的にトブライトを配置し、どの場所においても溢れる光を感じられる空間にしました。また壁の上部を開口部とし下意識的に人と人とのつながりを感じられるように全部屋を空間的に一つにつなぎました。(一部抜粋)



**奨励賞 三島 僚介**  
大阪建設専門学校 2年  
**記憶の集まり**

南面平行配置されている団地の東西方向の間隔のリズムに対し、南北方向の人の動く向きとなる隙間が存在する。その人の動きとなる南北方向の軸にリズムを与え、集会所として周辺の建物のシンボルとなるように与えた。リブの形を親しみやすい切妻の形にすることで、家の集まりのような建物となり、人が集まりやすくなるような集会所となり、様々な記憶が集積する場所を計画しました。